

創立50周年の企業紹介



代表取締役社長 稲垣 仁美氏

(株)中勢ゴム

創 立 ● 昭和39年 5月13日

所 在 地 ● 【本社工場】
津市安濃町内多400

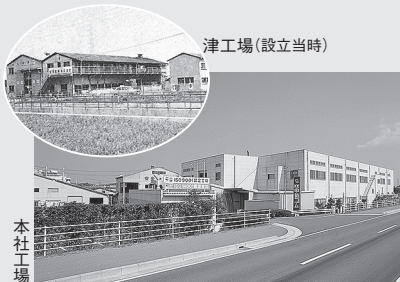
電話番号 ● 059-268-2201

代 表 者 ● 代表取締役社長 稲垣仁美

事業内容 ● 自動車用ゴム・樹脂部品
製造業

これまでのあゆみ

- 1964年 株式会社中勢ゴム設立(津工場)
- 1971年 現所在地に本社を移転
- 1972年 白山工場を保安部品専門工場とする
- 1981年 資本金55百万円に増資
豊田合成株資本参加
- 1988年 安濃工場竣工稼働
- 1997年 資本金140百万円に増資
- 2000年 本社工場の改築(西棟)
資本金259百万円に増資
- 2001年 ISO14001認証取得
- 2002年 本社工場増築稼働(東棟A)
炭化設備(安濃工場)
- 2003年 ISO9001認証取得
コージエネ設備(本社工場)
- 2004年 本社工場増築稼働(東棟B)
- 2005年 資本金396百万円に増資
- 2006年 物流センター稼働(草生)
- 2008年 OSHMS認証取得
- 2013年 営業部設置(営業活動強化)



津工場(設立当時)

本社工場

●貴社の経営理念をお聞かせ下さい。

弊社は、今年「感激、感動、成長」を新たな経営理念と決めました。創業以来、国内自動車産業の成長と共に弊社も売上拡大を続けて参りましたが、グローバル化に伴う現地調達部品の拡大はすさまじく、近年の国際価格競争は大変厳しいものがあります。



創立50周年記念碑

この難局を乗り越えるためには「最後は人」、つまり従業員一人ひとりの力につきると考えております。従業員の方一人ひとりが「失敗は手にしても、あきらめは手にしない」(ZARDの歌詞より引用)という気持ちで、役割、責任を果たし、目標を達成することにより「感激」し、この一人ひとりの「感激」が集団となり「感動」する。この繰り返しが会社を成長させていくという想いで、従業員全員力を合わせて邁進していきたいと考えて策定致しました。

●貴社の事業内容についてお聞かせ下さい。

弊社では、技術・品質・環境をキーワードに、主に自動車のボディー部品とホース部品を中勢地区4つの工場にて生産しております。

ボディー部品では、ドアやボンネット、トランクルームなど車体廻りの閉閉部に使われるスポンジその他複合材のシール製品が主力で、室内の気密性や静粛性など乗り心地を良くする重要な役割があります。また、ホース部品では、動力部であるエンジンへの燃料供給用フューエルホース、ブレーキホースなど100%の安全が要求されるような保安部品を始め、ゴム製品・ナイロン製の多様なホースがあります。

これらの製品は、環境に配慮した原材料を調達し、配合から押出・成形・加工まで一貫して生産することで、安心してご使用いただける製品を国内主要カーメーカー始め海外へも多数供給しております。

●事業を営んでいる中でご苦労された点についてお聞かせ下さい。

最も苦労した点は品質に関するお客様の苦情を如何に低減させるかという点で、2年ほど前まではほとんど減少傾向はありませんでした。そういった状況ですから、お客様からの苦情を私自身が直接伺うこともよくありました。

そこで、何故減少しないのかを私自身が徹底的に「現地」「現物」で確認しようと思い、昨年度1年間のクレームを1件1件点検した結果、やはり「対策が甘い」ということが判りました。設備・材料・方法についての対策は概ね良かったのですが、人の教育という観点で見ると不十分で、例えば作業者に「対策についてどんな教育を受けたのか」を聞くと、「口頭で注意を受けました」「変更した作業手順を教わりました」など最小限の内容で、理解・行動できる教育にはなっていませんでした。

この事実に関心を持ち、昨年度年次に「品質安全宣言活動」(人づくり、工程づくりを主とした活動)を立ち上げ、特に「人づくり」については守るべき基本のルールとして「禁止作業」を過去の失敗事例から集約してカードで配布し、それを基に一人ひとり「やって見せやらせてみて」で教育・確認したり、良品作業(標準)を作業者と一緒に見直す活動に取り組んだりした結果、昨年度後半頃からようやく不具合件数が減少し始めました。

未だ「0件」は達成できておりませんが、今後も継続していきたいと考えております。そういった経験を踏まえて、経営理念も新たに決めました。

今後とも専門メーカーの「人(人財)」ならでの知恵と技術を活かした魅力ある製品を提案していくことで、お客様に喜んでいただけるよう努めて参りたいと思っております。